

令和4年度

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター  
業務実績評価書

東京都



地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの  
令和4年度における業務実績評価について

地方独立行政法人の業務実績評価には、中期目標の期間における業務の実績に関する評価（期間終了前に実施する見込みの評価を含む。）と、各事業年度における業務の実績に関する評価の二つがあり、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、知事が評価を行います。

評価の実施に当たっては、同法同条及び東京都地方独立行政法人評価委員会条例第2条の規定に基づき、東京都地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴くこととされています。

この度、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター（以下「法人」という。）の令和4年度における業務の実績に関する年度評価を行いました。

今回実施した年度評価には、法人が中期目標を着実に達成するために作成した中期計画及び年度計画の実施状況を確認し、評価結果を示すことにより、法人の自主的な業務改善を促すという意義があります。

本評価書では、法人から提出された業務実績等報告書、法人からのヒアリング及び評価委員会の意見を通じて業務の実績を総合的に評価し、まとめた評価結果について、全体評価、項目別評価の順に掲載しています。

令和5年9月



# I 全体評価



# 1 総 評

第三期中期目標期間の最終年度となる令和4年度は、全体として年度計画を上回って実施しており、中期計画の達成に向け優れた業務の進捗状況にある。

また、新型コロナウイルス感染症への対応において、東京都をはじめ地域の医療機関など関係機関と連携し、法人一丸となって公的医療機関としての役割を適切に果たした。

## ○ 高く評価すべき事項

### <病院部門>

- ・ 新型コロナウイルス感染症対応のため、診療を制限せざるを得ない状況下においても、三つの重点医療（血管病、高齢者がん及び認知症）について、高度な技術を活用した鑑別診断や低侵襲な治療など高齢者の特性に合わせた医療の提供に努めた。
- ・ 地域の医療機関からの紹介受入れ、逆紹介を推進するとともに、地域の関係機関と連携し、救急患者の積極的な受入れを行うことにより、高齢者の急性期医療を担う病院としての役割を果たした。

### <研究部門>

- ・ ミトコンドリア超複合体（エネルギー産生に関わる蛋白質群の集合体）について、世界で初めて生きた細胞で可視化・定量化に成功し、この技術を活用して超複合体形成を促進し筋肉の運動持久力を向上させる新規化合物を発見するなど、高齢者に特有な疾患と老年症候群の克服に向けた研究を推進した。
- ・ 研究支援組織において、外部評価委員会における評価に基づき効率的・効果的な研究活動を推進したことや、競争的研究資金への積極的な応募により、科研費新規採択率を伸ばすとともに、過去最高となる競争的外部資金を獲得するなど、研究成果の実用化や社会への還元に向けた取組を一層推進した。

## <経営部門>

- ・ 「東京都健康長寿医療研修センター」を新設し、研修・実習の一元化により効果的・効率的な研修実施体制を構築するとともに、フレイルサポート医・栄養士の育成のための研修を実施するなど、高齢者の医療と介護を支える地域の専門人材の育成を推進した。
  - ・ 医師事務作業補助者の積極的な採用・育成により、医師の負担軽減と患者サービスの向上との両立を推進した。
  - ・ 東京都が運営する宿泊療養施設への看護師等の派遣など、東京都や地域と連携し、公的医療機関としての役割を果たした。
- 改善・充実を求める事項
- ・ アフターコロナを見据えた医業収入の一層の確保や、物価高騰の影響も踏まえたコスト管理の体制強化に向けた更なる取組が求められる。
  - ・ 患者満足度の更なる向上を目指した患者中心の医療の実践が求められる。



## 2 都民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する事項

＜高齢者の特性に配慮した医療の確立・提供と普及＞

- ・ 血管病医療について、低侵襲な治療やリハビリテーションを拡充するとともに、急性期脳卒中患者に対してより適切な医療を提供するためS C Uの活用を推進するなど、高齢者の多様な症例に対して適切な治療の提供に努めた。
- ・ 高齢者がん医療について、低侵襲な診断や高齢者の特性に合わせた医療の提供に取り組んだほか、がん相談支援センターにおいて、院内外のがん患者や家族等からの様々な相談に対応するなど、がん医療の充実を図った。
- ・ 認知症医療について、高度な技術を活用して早期診断の推進及び診断精度の向上を図るとともに、地域の人材育成や地域連携の推進に努め、地域における認知症対応力の向上に貢献した。
- ・ 高齢者に特有な疾患に対応した専門外来の実施や、入院時から退院を視野に入れた治療の提供と適切な退院支援を行うとともに、フレイルに配慮した「高齢者医療モデル」の確立・普及に努めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行下において、病床の一部を休止しながらも、地域の関係機関との連携体制を強化し、救急患者の積極的な受入れを行った。
- ・ 地域医療連携システムによる初診w e b 予約を開始し、地域の医療機関に対する利用促進に向けた訪問活動を強化するなど、地域連携を推進し、紹介率・逆紹介率の向上に努めた。
- ・ 東京都が運営する宿泊療養施設等への看護師等の派遣や高齢者等医療支援型施設からの透析患者の受入れなど、東京都や地域と連携し、公的医療機関としての役割を果たした。

<高齢者の健康長寿と生活の質の向上を目指す研究、医療と研究とが一体となった取組の推進>

- ・ ミトコンドリア超複合体（エネルギー産生に関わる蛋白質群の集合体）について、世界で初めて生きた細胞で可視化・定量化に成功し、この技術を活用して超複合体形成を促進し筋肉の運動持久力を向上させる新規化合物を発見するなど、サルコペニア等の老年症候群の克服に向けた取組に寄与した。
- ・ 中高強度の身体活動・多様な食品摂取・社会行動を組み合わせ実践するほど、要介護リスクが大きく低減することを明らかにするとともに、フレイル予防のための教材や研修プログラムを都内のみならず他府県にも展開するなど、得られた成果の普及・還元によって高齢者を支える地域づくりに取り組んだ。
- ・ 高齢者ブレインバンクの新規登録を着実に進め、国内外の関係機関とネットワークを構築したことに加え、競争的研究資金への積極的な応募を引き続き行い、科学研究費助成事業の新規採択率が全国4位となるなど、老年学研究におけるリーダーシップを発揮した。
- ・ 研究支援組織「健康長寿イノベーションセンター（H A I C）」を中心に、外部研究機関や企業等との共同研究開発を積極的に推進し、外部獲得研究費の総額が過去最高を記録した。
- ・ 医療・研究の一体的取組により培ったセンターの知見等を生かし、認知症未来社会創造センター（I R I D E）及び東京都介護予防・フレイル予防推進支援センターの運用を通じて、東京都の認知症施策や介護予防施策に貢献した。

<高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行下においても、フレイルサポート医・栄養士の育成など、地域の専門人材の育成や連携強化に取り組むとともに、研修生や学生の受入れなどを行い、今後の高齢者医療・研究を担う人材の育成に貢献した。

### 3 法人の業務運営及び財務状況に関する事項

- ・ 医師事務作業補助者を積極的に活用することにより、組織的な負担軽減や計画的なタスクシフト／シェアによる医師の負担軽減と患者サービスの向上との両立を実現し、業務の改善に努めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行下においても、新規患者の獲得や平均在院日数の短縮、新たな施設基準の取得等により医業収入確保策を推進するとともに、積極的に研究に係る外部資金の獲得を図るなど、収入の確保に努めた。
- ・ 物価高騰の影響を受ける中、ベンチマークシステムの一層の活用や契約方法の見直し等により、コスト管理に努めた。

### 4 その他

#### (中期目標・中期計画の達成に向けた課題、法人への要望など)

- ・ 令和5年度は、第四期中期目標期間の初年度となる。目標達成に向けて、第四期中期計画に基づき、初年度から着実に成果を上げていくことが重要である。  
アフターコロナなど医療・研究を取り巻く社会状況を踏まえ、東京都における高齢者医療・研究の拠点として、地域の医療機関等と連携を図りながら、その役割を着実に果たすとともに、目標達成に向け、法人一丸となって取り組むことが期待される。

